

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「クラブと地区の
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「しなやかな変化で
奉仕を高めましょう」



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー
2560地区ガバナー 新保 清久
高田ロータリー会長 橋詰 敏一
幹事 田中 正人

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守
小池 猛紀

第23回例会 ■ 1月5日(金)

No.23

会長挨拶 ● 橋詰 敏一



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

本日新年初例会に村山市長さんが大変お忙しいにもかかわらずおいでいただきました。心より感謝申し上げます、後程講話いただきます。年の瀬から三が日は、穏やかな天候で、皆様それぞれ思い通りに過ごされた事と思います。この正月は必要な山には雪が十分有り、里は化粧程度で冬らしい正月でした。昨年の酉年は「北」の風に翻弄され、方向を見失いがちの風見鳥といった雰囲気でしたが、本年の戌は、鼻を利かせて方向をしっかりと見定められるよう祈っております。目標達成の出来る「ワン」ダブルな年にしたいものです。

本日5日は、二十四節気の「小雪」です。「七草粥」をいただき、一年の無病息災を祈念する日ですが、今でこそスーパーに「七草」がセットで売られていますが、我々が幼い頃は野草は雪の下であり、口にすることはありませんでした。七草の1つ「セリ」は雪の下でも成長する程の生命が有ります。「春」田んぼの用水の泥上げを行うと、用水いっぱい「セリ」が埋め尽くしているのによく出くわしました。この時期の野草には生命力がたっぷりあるものと思います。

さて、ロータリー活動の目標達成に向け、当年度も半年となりました。大谷ガバナーノミニー決定を受け、クラブの会員拡大は今後の活動の為、是非達成せねばなりません。4名以上を目指し協力を願います。

また、各委員会活動も宜しく願います。特に社会奉仕委員会さんと共にさくらシンポジウムに合せて桜の植樹協力として、地元上越妙高駅周辺の住民の方々へのPRと要請を行っていかうと思えます。また、青少年・国際奉仕関連では、交換留学生支援が今年度と来年度に渡って行われます。これも皆様の協力なくしては成し得ません。

そして、国際奉仕では財団資金を活用した国際支援を来年度から独自で立上げられるかの準備・検討も今後協議してまいりたいと考えております。

そして、何よりも大谷ガバナーノミニー事務所立上げの為、7分区の先頭に立って参ります。

どうぞ本年も宜しくお願い致します。

出席報告

出席率 100%

ビジター

上越市長 村山秀幸様
細野春貴君 (高田 RAC 会長)

メイクアップ

橋詰敏一君・石倉 悟君 (12/23 長期派遣学生オリエンテーション)
大谷光夫君・橋詰敏一君・田中正人君・牧野章一君・本山秀樹君 (12/29 第7分区緊急会長幹事会)

委員会報告

出席ニコニコ BOX 委員会

会長・幹事——新年初例会に村山市長様をお迎えでき誠に光栄です。

橋詰敏一君——本日1月5日、例会と誕生日が

重なりまし、それも新年初例会、誠にありがとうございます。満59歳、数えの60(還暦)となります。やっといい味が出てきそうです。遠藤 巖君——会長より頂戴致しました宝くじが当たりました。山崎公一君——ロータリー入会から1年が経ちました。今後ともご指導宜しくお願い致します。

高田 RAC (細野会長) —— 1月11日1月度第1定例会のご案内(19:45~)
財団委員会——寄付のお願い

幹事報告

配布物：週報No.21・22
回覧物：ガバナー月信1月号

講話

当市の将来展望と政治姿勢



上越市長 村山 秀幸 様

新年明けましておめでとうございます。昨年中は事のほかお世話になりました。秋の市長選では皆様方のお力添えをいただき、ようやく3期目に入ることが出来まして心からお礼申し上げます。

地域の関係性をより強くすることの大切さに選挙活動を通して改めて再確認する事となりました。

今日は私自身の想いに触れながら「政治姿勢」について少しお聞きいただきたいと思えます。

「将来展望」については、上越市は人口減少・超高齢化等様々な社会問題に対応しなくてはなりません。現在毎年1,700人が減少、12年間でも12,000人がこの地から消えているのが現状です。生産年齢人口(15~62才)を見ても、学生の就職者はわずか500人でそれ以外の75%は上へ進学します、地元中小企業の人材確保も非常に厳しくなっています。子供の出生率の低下に伴い、小学校自体の存続も危ぶまれ合併化が益々進んでおります。時代は大きく変わって来ています、人口減少は企業の継承・存続にもマイナスに働き、減少を止める事は出来ないが、現実を直視し市政に取り組んで行かなくては明るい上越市の未来がなくなってしまいます。

選挙活動中に南新町のアパート群を回っていた時のことですが、10分程度の街宣活動に地域の皆さんほとんどが団地のベランダから顔をだして私の話に耳を傾けてくれました。

医療・介護に対しては10年前からの取り組みの結果、医療費給付は一人当たり35万、介護保険料も140万と全国一高い額を確保しています。先を見ながらのこの取り組みが介護施設の多い地域を誕生させ、市民に住みやすさ・安心を与える結果となりました。

ただし、そのほとんどが高齢のおじいさん・おばあさんが中心で若い方はほとんど居ませんでした。私はその状況を見て、8年間の任期の中で本当にこの人たちの生の声を私は聴いていたのだろうか？という自身への反省の念が湧いてきて無性に涙がこぼれ、ポロポロと泣いてしまい話が止まってしまいました。これも「反省の涙」と自分自身では感じていました。それから数か月後に牧区でのお祭りの席があり、初めて参加した時の事ですが、縁というものを強く感じた出来事がありました。一人のおばあさんが「あんた市長さんだわね？」「私、あんたの話を以前聞いたことがあるよ！」と声を掛けてくれました。

農業においては、上越市では現在100万俵の米を作っています。自由化に伴いどれだけ作っても良い時代を向かえるが販売は自分で行う為、今後は需要に合ったコメ作りを進めなくては生き残りが非常に難しくなってきます。コシヒカリ以外の品種も複数作り稼働率を高め生産性を伸ばしていくことが必ず必要になってきます。若い世代による法人化も徐々に効果が出ているので、今以上に農家経営を自分のものとして捉え次世代へどう伝えて行けるかが大きな課題として迫って来ております。

3か月前に南新町のベランダに顔をだしてくれた中のお一人でした。その86才のおばあちゃんから頑張るよう励まされ改めて、ご縁の大切さを感じる体験を致しました。また飯山市手前の奥地の集落へ行った時に、60代後半の男性から選挙カーの中に【くびき文化】と言う一冊の本が投げ込まれました、その男性は農業をやりながら地域の出版活動にも挑戦しているとので、私に励ましの声をかけてくれました。私はそういった地域の方との触れ合いの中で、8年間で忘れていたことを改めて思い出すことが出来ました。美智子皇后様の「人生は複雑で単純ではない」という言葉もあるように、自分の69才の人生に重ね合わせると想いを伝える事は難しいが、自分自身が何を出来るかをもう一度見つめ直し、原点回帰の精神で3期目を進めていこうと考えています。人と人・人と

広い上越市は将来的に抱える問題も非常に多いわけですが、上越市はしっかりとした取り組みで派手さはないが一定の効果を生み出してきている地域があります。私は現実に沿った形で「備える」を徹底的に貫き、市民の皆さんの声と共に3期目を全うしたいと考えておりますので今後とも何卒ご支援をお願い致します。